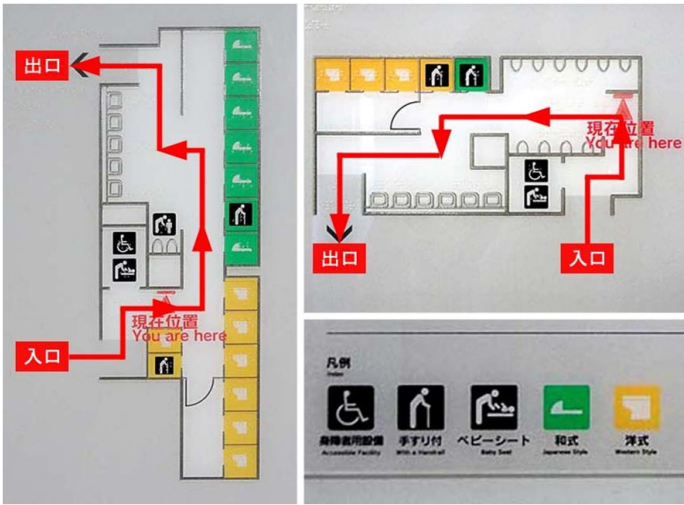


外観



国内最大の72,327席の観客収容能力を誇る日産スタジアム。雨天対応として観客席は、4分の3が屋根に覆われている。

観客用トイレ 図面



男女ともトイレ内の動線が交差しないように、一方通行のレイアウトを採用。スムーズな動線を実現することで混雑緩和を図っている。

観客用トイレ 小便器コーナー



小さなお子様から大人まで使えるように、床置きタイプの小便器を採用。

観客用トイレ 洗面コーナー



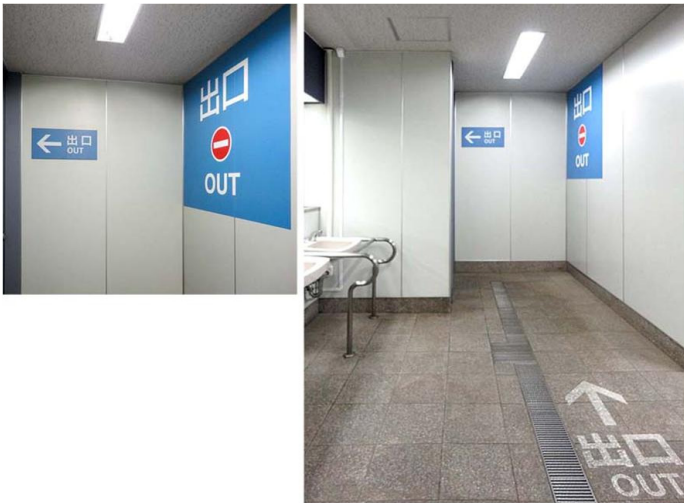
洗面器の内1ヶ所は、小さなお子様がいやすいように560mmの高さに設置している。また、女性トイレの洗面コーナーの近くには、お子様用の小便器コーナーも用意している。

観客用男性トイレ 入口



入口には、ほかのフロアのトイレ案内も表示し、混雑時の集中を回避。入口近くの床には足形マークを付けて、混雑時の待機場所を分かりやすくガイドしている。

観客用トイレ 出口



一方通行のスムーズな誘導が図れるよう、床や壁に出口サインを大きく表示し、出口の間違いを防いでいる。

観客用車いすトイレ



4Fと5Fの男女トイレには車いすトイレを設置。車いす使用者だけでなく、小さなお子様連れに配慮してベビーシートを備えている。

競技者用 更衣室



更衣室にはシャワールームが併設されており、競技者がスポーツで流した汗を洗い流すことができる。

観客用トイレ 可変壁



イベントにより来場者の男女比が異なる場合を想定して、トイレ内に可変壁を設け、男女の大便器のブース数を調整できるようにしている。可変壁の扉を開けることで大便器のブース数の男女比が変えられる。

観客用トイレ 大便器ブース



洋式便器の一部にはウォシュレットを設置。

建築概要

名 称	日産スタジアム(横浜国際総合競技場)
所 在 地	神奈川県横浜市港北区小机町3300
施 主	神奈川県横浜市
設 計	松田平田・東畑建築事務所共同企業体
施 工	竹中・奈良建設共同企業体 銭高・日本鋼管工事建設共同企業体 日本国土・渡辺建設共同企業体 佐藤・三木建設共同企業体
竣 工 年 月	1997年10月 (改修)2014年3月
観 客 席 数	72,327席

水まわりの特長

＜施設の概要＞
国内最大規模の観客数を誇る日産スタジアム(横浜国際総合競技場)は、建設省関東地方建設局(現:国土交通省関東地方整備局)が1984年に事業着手した「鶴見川多目的遊水地整備事業」に、横浜市が共同事業者として参画した「横浜総合運動公園(現:新横浜公園)整備事業」の中核施設。サッカーや陸上競技のスタジアムとして、2002年FIFAワールドカップ本大会会場となり、現在は横浜F・マリノスのホームスタジアムとなるなど、数々の名シーンの舞台となった歴史あるスタジアムである。

＜トイレの特長＞
利用時が集中するスタジアムという特性から、特に混雑緩和のため、トイレ内の動線が交差しないように、男女トイレとも一方通行のレイアウトを採用。さらに、イベントにより来場者の男女比が異なる場合を想定して、トイレ内に可変壁を設け、男女の大便器ブースの数を調整できるようにしている。また、小さなお子様連れへの配慮として、洗面器の1ヶ所は高さを低く設置し、女性トイレ内に小便器コーナーも設備。さらに、すべての男女トイレ内に車いす使用者と小さなお子様連れに配慮した車いすトイレを設置するなど、さまざまな身体状況の方への配慮もなされている。